

2025年3月期 第1四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2024年8月8日

注意事項

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2025年3月期第1四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	24年3月期 4Q	25年3月期 1Q	対前四半期
	売上収益	3,221	4,285
営業利益	439	1,259	+820
マージン	14%	29%	+16pt
当期純利益	103	698	+595
マージン	3%	16%	+13pt

補足情報

減価償却費及び償却費 ²	816	785	▲31
PPA影響額 ^{3, 4}	▲3	▲3	0
法人所得税費用	69	300	+231

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第1四半期におけるEBITDAは、営業利益1,259億円に減価償却費及び償却費785億円を加算した2,044億円となりました。
3. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額です。
4. 営業利益からPPA影響額及びその他の一過性の損益を除外したものが、当社グループの恒常

的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第1四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益1,259億円からPPA影響額▲3億円を除外した1,262億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益698億円からPPA影響額▲3億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて700億円となりました。

ハイライト (1/2)

足元の実績及び動向

	24年3月期 4Q	25年3月期 1Q
出荷量 ¹ (QoQ)	1桁%台後半の 増加	10%台前半の 増加
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	10%台後半の 上昇	20%前後の 上昇

- 第1四半期連結会計期間は、需給バランス改善による販売単価上昇、フラッシュメモリ需要の回復による出荷量の増加、円安の進行により、売上収益は過去最高を更新、営業利益も前四半期比で増益となった
- ドルベースの販売単価は10%台半ばの上昇となった

1. 記憶容量ベース

製品開発・技術開発

- AI（人工知能）など様々なアプリケーションにおいて新たな容量帯の実現を可能にする業界最大容量となる第8世代BiCS FLASH™ 2Tb QLCをサンプル出荷
- CBA（CMOS directly Bonded to Array）技術の採用により飛躍的な性能、密度、コストを実現した第8世代のBiCS FLASH™ 1Tb TLCの量産を7月に開始
- 北上工場第2製造棟の建屋が完成、稼働は2025年秋の予定

ハイライト (2/2)

市場動向及び見通し

- 顧客在庫の正常化や需要の回復により、需給バランスはほぼ均衡している
- PC向け需要は回復が弱含んでいるが、スマートフォン向け需要は緩やかに回復している。今後、オンデバイスAIの普及、メモリ搭載容量の増加及びPCのオペレーティングシステム更新に伴う買い替え需要も期待される
- データセンター・エンタープライズSSDの需要は、顧客の在庫水準正常化やAI需要により伸長している。AI用途での高密度・高容量のSSDに加えて、一般サーバの需要回復も見込まれる
- AIの普及及び搭載容量の増加傾向によるフラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての見方に大きな変化はない
- 需要に沿った適切な生産水準の維持と、販管費と製造コストの管理により、今後も効率的な事業運営に努める

KIOXIA